



世界に誇る文豪・近松門左衛門が生まれ、
多感な少年時代を過ごした福井県鯖江市。
「近松作品の原点になったまち さばえ」が
再び恋にまつわる短編小説を募集します。

募集要項 : 恋にまつわる短編小説(男女の恋愛だけに限るものではありません)、400字詰め原稿用紙10枚まで。最低1箇所は鯖江に関するもの(歴史・文化・産業等)を入れてください。題材は不問。未発表のものに限ります。
なお、著作権は主催者へ帰属します。

表彰 : [近松賞(1点)] 賞金10万円、賞状、副賞(清酒“梵”)
[優秀賞(2点)] 賞金3万円、賞状、副賞(清酒“梵”)
[佳作(3点)] 賞金1万円、賞状、副賞(清酒“梵”)
入賞作品は鯖江市ホームページに掲載、電子書籍で販売。

審査員 : [審査員長] 水間貴子氏(元鯖江市国語科研究部長)
[審査員] 林哲治氏(さばえ近松倶楽部代表)
四戸友也氏(元福井新聞編集本部長)
高島建夫氏(元近松の里づくり事業推進会議会長)
[特別審査員] 藤岡陽子氏(小説家)



[特別審査員] 小説家 藤岡陽子 ふじおかようこ

1971年、京都市生まれ。2006年『結い言』にて宮本輝氏が選考する第40回北日本文学賞選奨を受賞。2009年『いつまでも白い羽根』で作家デビュー。また、2018年にフジテレビ系でドラマ化された。2021年『メイド・イン京都』(朝日新聞出版)で京都大賞を受賞。最新刊は『空にピース』(幻冬舎)。

応募方法 : 鯖江市ウェブサイト内に設置する専用サイト
(<https://www.city.sabae.fukui.jp/chikamatsu/guide.html>)
からの電子応募、または下記応募先に原稿と応募用紙を同封の上郵送。



近松文学賞
専用サイト

締め切り : 2023年6月30日。郵送の場合は当日消印有効。(期限厳守)

郵送での応募先 : 〒916-0005 福井県鯖江市杉本町702-2
立待公民館内「さばえ近松文学賞」係

スケジュール : 2023年 6月30日(金) 応募締め切り
2023年 8月上旬 第一次審査
2023年 9月上旬 第二次審査、入賞作品決定
2023年 9月中旬 入選者のみ通知、あわせて福井新聞紙上とホームページにて発表
2023年 9月30日(土) 「たちまち近松まつり」にて入賞作品の表彰式、記念公演

さばえ近松文学賞—恋話(KOIBANA) RETURNS— [応募用紙]

フリガナ
作品タイトル

フリガナ		
氏名	住所 〒 -	
職業 (○をつけてください。任意) 会社員/公務員/自営業/専業主婦/パート・アルバイト/大学・短大生/専門学生/高校生以下/その他		
年齢	電話番号	メールアドレス
作品の中に取り入れた鯖江の題材		

江戸時代を代表する文豪

ちかまつ もん ざ え もん
近松 門左衛門 (1653~1724)



人形浄瑠璃や歌舞伎のすぐれた作品を数多く残した近松門左衛門は鯖江で生まれ、多感な少年時代、人間形成の大切な時間を過ごしています。義理人情に悩む日本人の人間らしい姿を描き出す近松文学の土壌は、鯖江の豊かな自然と人情、風情に育まれたと言えるでしょう。まさに鯖江は近松作品の原点になったまちなのです。「東洋のシェイクスピア」と呼ばれるほどに、人間の悲しさや愚かさ、やさしさを描いたその作品は370年を経た現在も愛され続けています。



そね ぎきんしん ちゆう
曾根崎心中



めい どの ひろ ちゆう
冥途の飛脚



あいらん ちゆう じゆう じゆう
女殺油地獄

「近松門左衛門生誕説」 (三好修一郎福井大学名誉教授 / 平成28年立待地区「近松忌」で発表、平成30年「歌舞伎学会」掲載)

近松はやはり鯖江で生まれていた! 「近松鯖江生誕説」とは・・・。
大阪市立大学の森修先生が、杉森本家の系譜・親類書と福井藩の歴史書の記述を検討して、近松門左衛門は福井で生まれ、殿さまの松平昌親が福井から吉江にやって来た後に吉江に移ってきたと発表してから60年、その説が定説とされてきました。でも、正保2年(1645)に父忠昌が死去し、同年、幕府は2人の側室腹の男子(昌勝・昌親)に松岡・吉江への分家を認めました。そして、その翌年、昌親は、母・妹とともに江戸に赴き、吉江に入るまで江戸暮らしでした。その間、その家来たちが、殿さまの留守を預かって、吉江の地で藩政をとり仕切っていたのです。(平成30年(2018)、三好修一郎福井大学名誉教授が、歌舞伎学会の雑誌において、その事実を明らかにしました。)

ところで、昌親の叔母が嫁いだ西光寺には、昌親からの手紙が数多く残されています。昌親が、「従五位兵部大輔」の位階を授かった時、西光寺から家老の高屋善右衛門宅にお祝いに駆けつけました。昌親からの御礼の手紙の中に、その名前があります。それは、近松が生まれる一年前です。その頃には、家臣たち(とその家族)は、吉江にいたという何よりの証拠です。つまり、近松は、吉江で生まれたと考える方が理にかなっているということです。



昌親が西光寺に宛てた書状 (高屋善右衛門の名前があります)



三好修一郎氏 (福井大学名誉教授)

近松門左衛門と「近松の里 たちまち」

近松の父杉森信義が仕えた吉江藩(1645~1674)が置かれたのは、現在の立待地区です。藩主松平昌親公の書状が多く残る西光寺の表門は吉江藩館から移築されたものと伝えられ、昌親公を祀る吉江神社には昌親公の家紋「三つ葉葵」が施されています。「三つ葉葵」の原型になった「二葉葵」は、「吉江あおい会」の皆さんにより大切に育てられ、毎年、「葵祭」に合わせて、上賀茂神社へ奉納されています。他にも吉江藩の名残が残るこの地で、近松は生まれ育ったのです。

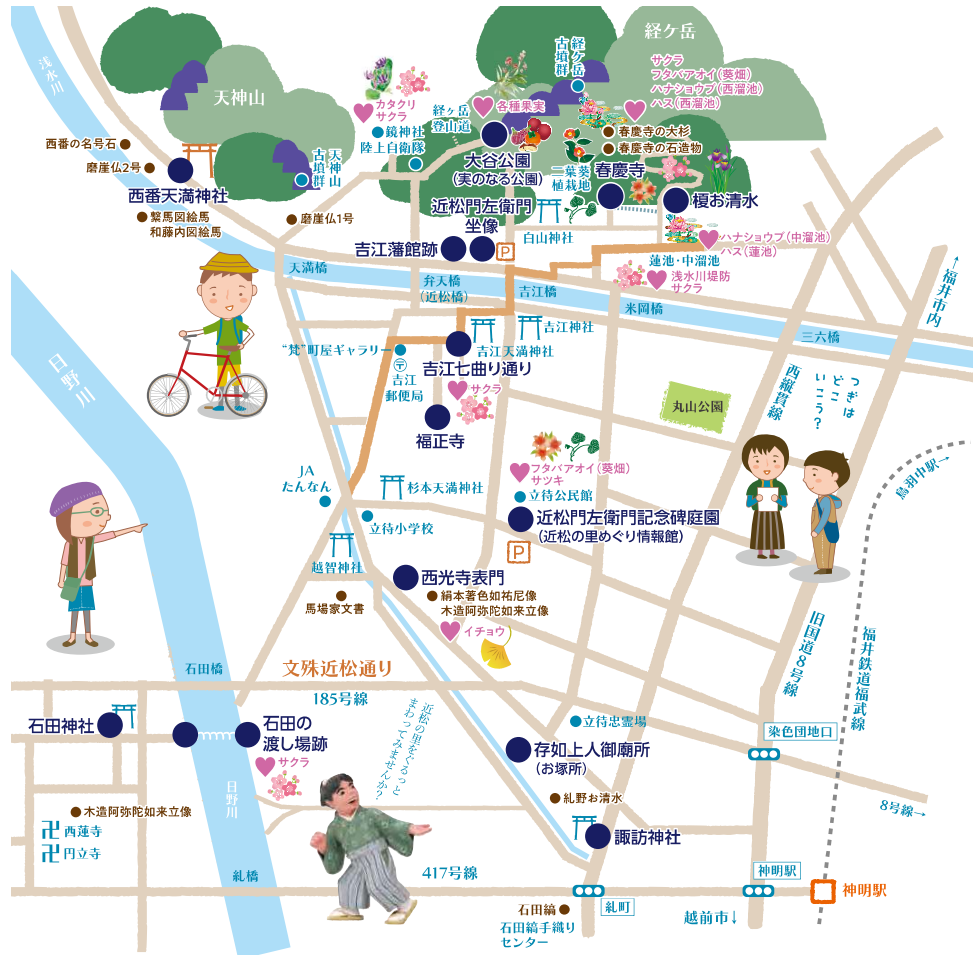
再来近松

それでも人は恋花

する

。

時を超えて生まれ変わった、近松が生まれ育った「たちまち」を歩いてみませんか？



特別審査員 藤岡陽子原作

「おしよりん」2023年秋に全国公開予定！

明治時代に麻生津村（現福井市）で、鯖江市の三大地場産業である眼鏡産業の礎を築いた、増永五左衛門、幸八兄弟を描いた小説「おしよりん」が映画化。2023年秋公開予定。

【キャスト】増永五左衛門役：小泉孝太郎、増永むめ役：北乃きい、増永幸八役：森崎ウィン

問合せ 近松の里づくり事業推進会議事務局（近松の里たちまち「立待公民館」内）
TEL) 0778-51-3376 [FAX] 0778-51-8416 [e-mail] SC-CC-Tachimachi@city.sabae.fukui.jp
（※選考に関する詳細についてはお答えできません。）

web [近松の里たちまち] <http://www1.tn.ne.jp/~cc-tatim/>
[鯖江市教育委員会文化課] <http://www.city.sabae.fukui.jp/pageview.html?id=27>
[鯖江市観光サイト] さばかん (<http://www.city.sabae.fukui.jp/users/kanko/>)

主催：近松の里づくり事業推進会議 共催：鯖江市、鯖江市教育委員会、福井新聞社、福井テレビ
協賛：(公財)げんでんふれあい福井財団、清酒“梵”醸造元(資)加藤吉平商店、Do Company出版 助成：地域コミュニティ支援事業



R E T U R N S

再来近松



近松門左衛門 生誕370年記念

さばえ近松文学賞 - 恋話(KOIBANA) RETURNS - 作品募集。

文豪近松門左衛門が生まれ、多感な少年時代を過ごした福井県鯖江市。近松作品の原点になったまち・さばえが恋にまつわる短編小説を募集します。

「RETURNS」には、文化力でコロナ禍から回復するという意味が込められています。

「マンガ近松文学賞」を電子書籍で販売中！（<http://bobobooks.com>）

それでも人は恋